ふるさと野田村を愛し、その復興・発展を支える人材の育成
～復興教育「太陽プロジェクト」12 年間の取組を通して～

岩手県野田村立野田中学校
校　長　菊　池　　勉

1．主題設定の理由

本校生徒は、東日本大震災前の平成 19 年（2007 年）実施「全国学力・学習状況調査による質問紙」による調査結果では、「自分にはよいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の２つの項目に主な課題があるとされてきた（**図１、図２**）。

東日本大震災以降、本校は、復興教育を活動の大きな柱の一つに定め、子どもたちの心のケアを図るとともに、震災前からの課題を解決しつつ、村の復興・発展を支える人材の育成を図ることを目的に諸活動を推進してきた。しかし、これまで取り組んできた 12 年間の復興教育の成果や課題を具体的なデータをもとに検証する機会は多くはなかった。

そこで、本研究では、東日本大震災以降取り組んできた本校の復興教育（以下、「太陽プロジェクト」）がもたらした教育的効果について、諸調査の結果や生徒アンケートの結果をもとに、取組前後の変容から明らかにすることとし、今後の取組の方向性をより確かなものにしたい。

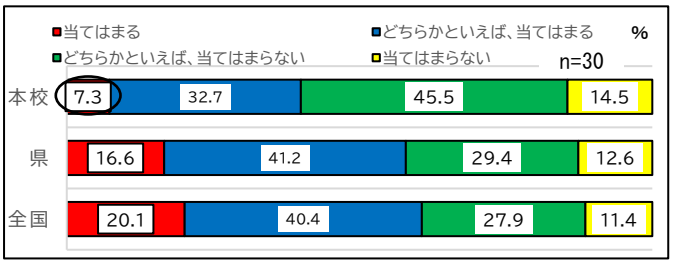


図１　自分にはよいところがあると思いますか(H19)

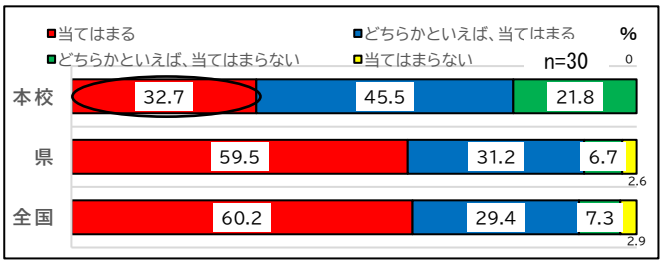


図２　人の役に立つ人間になりたいと思いますか(H19)

2．取組の具体

(1) 東日本大震災と復興教育「太陽プロジェクト」の始まり

本校のある野田村は、岩手県沿岸北部に位置し、2011 年の東日本大震災津波で甚大な被害を受け、現・在籍生徒の 37%が自宅の全壊、または一部損壊を経験している。本校では、震災後の 2012 年度から、深い悲しみや絶望感がある村の人々を元気づけるため、生徒の発案により「野田村の太陽になろう」との合言葉を掲げた。この言葉を具現化した取組である「太陽プロジェクト」（復興教育）は、野田村について学んだり、人々を元気づけたりするために生徒が行う諸活動を指している。

(2)「太陽プロジェクト」のグランドデザイン

本校では、人材育成の観点から、**図３**の資質・能力ベースのグランドデザインを作成した。地域のとの関わりをベースに、目指す子どもの姿を明確にし、学習内容や手立てを考え、「太陽プロジェクト」で具体化している。

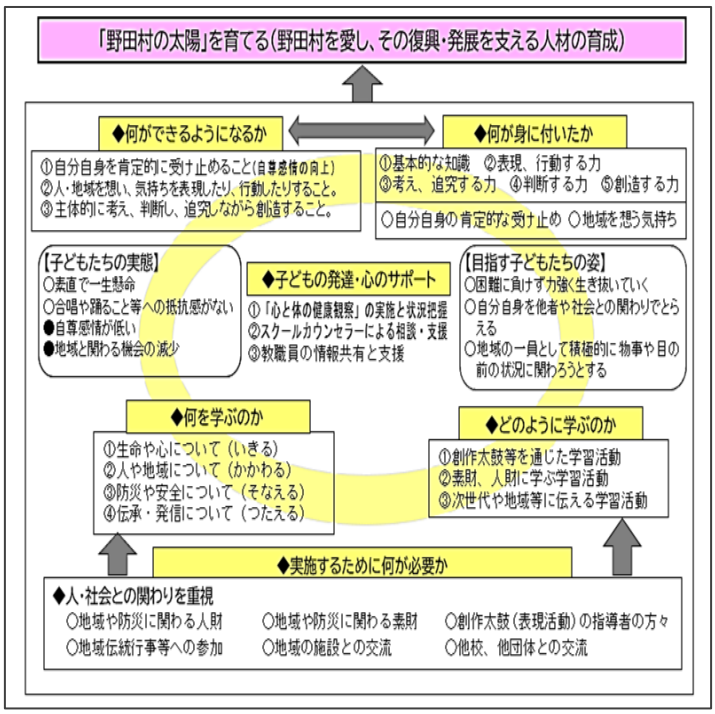


図３　目指す生徒像と手立て・内容（グランドデザイン）
（髙木展郎ほか『これからの学校・これからの授業』小学館 2017 を参考に作成）

３.「太陽プロジェクト」における４つの力（教育的価値と育成の中心となる力）

本校では、先に示したグランドデザインをもとに、岩手の復興教育で示された３つの教育的価値（いきる、かかわる、そなえる）へ独自に「つたえる」を加え、諸活動を通して４つの力を育てている。

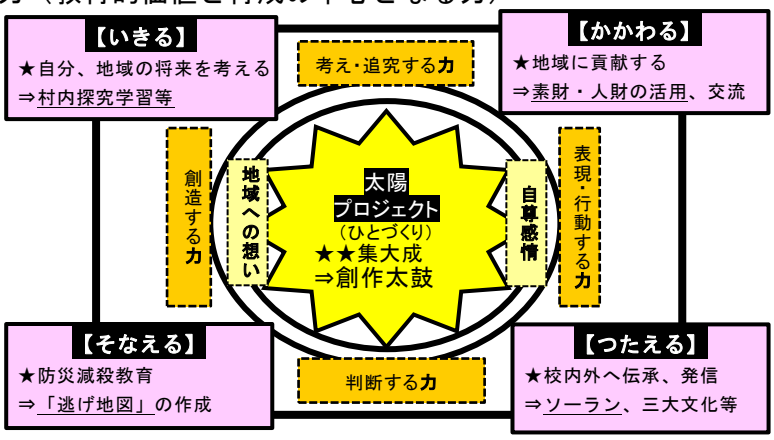


図４　「太陽プロジェクト」の中心的活動と育成したい力

図４のように、太陽プロジェクトで育成したい力のうち、村の復興・発展を支える人材に備えるべき要素として「地域への想い」「自尊感情」を２本柱に位置づけるとともに、４つの力（考え・追究する力、創造する力、表現・行動する力、判断する力）を２本柱の外側へそれぞれ位置付けて育成を図っている。それぞれの力は、太陽プロジェクトを構成する「防災学習」、「地域学習」、「地域貢献」等の内容を体験的に進め、総合的に培うものとしている。プロジェクトの集大成として中心に位置づく「創作太鼓」は、これまで学習してきたことをもとに、生徒たちが地域や社会への願い、想いなどから創作し、発信する表現活動である。

４.「太陽プロジェクト」における主な取組とその概要

(1)「太陽プロジェクト」へつながる「復興のまちづくり」への参画

2012 年、生徒たちは村からの要請を受け、防災や地域交流の場などの機能をもつ「都市公園設計」のアイディアを提案することになった。この取組では、初めに村や設計会社による「まちづくり」と「都市公園計画」に関わる案の説明を受けた。生徒たちは、自分たちの視点から「野田村都市公園」づくりの「アイディアコンテ」をグループで作成し、ワークショップを実施した。ワークショップでは、村の担当者や設計コンサルタントから感想をもらいつつ、交流したアイディアを「観光」「自然」「施設」などのカテゴリーに分類し、その優先順位を話し合い、公園のコンセプトを焦点化していった。現在、生徒たちの考えた案の一部を取り入れて整備された公園は、「十府ヶ浦公園」として、津波からの防災機能をもつほか、憩いの場やイベント会場等、村民に親しまれる場となっている。この取組のスタンスが太陽プロジェクトに引き継がれることになった。

十府ヶ浦公園での創作太鼓演奏

(2) 太陽プロジェクトの集大成としての「創作太鼓」

太陽プロジェクトの集大成としての「創作太鼓」は、2012 年に邦楽作曲家の佐藤三昭氏の全面的な協力によりスタートした。震災後の物資が全く足りない状況で始まったため、使う太鼓は、海外や他校から寄贈された太鼓、古タイヤにテープを張った「輪太鼓」、山から切り出した「竹」などを活用している。太鼓演奏の譜面はあるが、計４曲の演奏や曲解説などの表現方法は自由としている。生徒たちは、先輩の演奏を手本にしつつも、同じ型をなぞることはせず、これまで考えたことや想いを出し合いながら独自の演奏を創り上げている。2016 年に「構成詩」、2022 年には「戯曲化」するなど、その代ごとに工夫を凝らして演奏している。

(3) 想いを伝える野田中ソーラン【つたえる】

野田中ソーランは、民謡歌手の伊藤多喜雄氏から音源の提供を受け、学校行事や地域の諸行事等の多くの機会に披露し、村内外へ復興のメッセージを発信するとともに、踊りを通して村の人々へ元気やエネルギーを届けられるよう全学年で取り組んでいる。ソーランは創作太鼓とは異なり、上

級生が下級生へ指導をする学年間交流の場と位置付けるとともに、生徒間で想いを共有するコミュニケーションの場ともなっている。

(4)「人」や「地域」から学び、「地域」へ貢献する【かかわる】

本校では、地域内外の人・モノ・コトを『財産』と捉え、毎年、講演会や交流会を実施している。これまでに定期的に地域の人材を講師として招いたり、佐々木洋氏（花巻東高監督）を招いて講演会を実施したりするなど、多くの方々から学ぶ機会を設けてきた。生徒たちに様々な立場や分野で活躍する人々に触れさせたり、関わらせたりすることで、自己の生き方を考える態度を養うとともに、村の将来について多面的・多角的に考え、自分事として行動できる生徒の育成を図っている。

(5) 災害時の避難地図「逃げ地図」の作成【そなえる・つたえる】

2022 年、村は新たな洪水・土砂災害のハザードマップを公表した。「逃げ地図」の取組は、村の状況を踏まえ、「生徒が災害から身を守ることができること」、「高齢者や幼児などの目線で避難時間や避難場所までの道路状況を確認すること」、「避難時の留意点について地域へ発信すること」等を目指し、活動をスタートした。活動に際しては、村の防災官から様々なアドバイスを受けた。生徒たちは、道路状況や危険箇所を「津波浸水区域」、「洪水危険箇所」、「土砂災害危険箇所」、「地形・気候に関わる箇所（低地、障害物、凍結など）」などの観点から現地を確認し、地図上にメモした。そして、危険箇所を避けたルートでの避難所までの所要時間を高齢者等に合わせたスピード（43m/分）で実際に測りながら確認し、避難所へ到着できる時間の目安を８種類に色分けした「逃げ地図」にまとめ上げた。「逃げ地図」は、各所で発表し、村全体に備えの必要性を訴えている。

作成した「逃げ地図」を小学校で説明

(6) 自分の生き方を考える、生徒の心のサポート【いきる】

「総合的な学習の時間」「職場体験」等では、地域を語れることを目指した探究学習を進めている。村内への事業所の訪問や実際の体験、社会人となった卒業生から話を聞く機会など「見て、聞いて、やってみる」場面を多く設定することで、身近な人々から学び、自分の生き方を考える機会としている。また、東日本大震災後から岩手県教育委員会による「心とからだの健康観察（アンケート）」を実施し、ＳＣと連携しながら、計画的に心のサポート授業や個別面談などを実施している。

５. 取組の結果

(1)「自己有用感」「人の役に立ちたいと思う意欲」を高める効果について　～第３学年生徒の経年比較～

取組における効果は、「全国学力・学習状況調査（質問紙）」の結果を、震災前（H19）・震災後（「太陽プロジェクト」実施後）の経年比較、χ^2検定及び諸要素との相関関係から分析した。

①自己有用感の高まり

分析の結果、**図５**のとおり、自己を肯定的にとらえる生徒の数は、取組前の H19 年度に比べ、優位に多かった（$\chi^2(9)=50.028$、$p<.01$）。残差分析の結果、R５年度の「当てはまる」が増加する一方、「当てはまらない」が減少する傾向にあった。このことから、R５年度は、生徒全体が自己をプラスに考える傾向に動いたと言える。

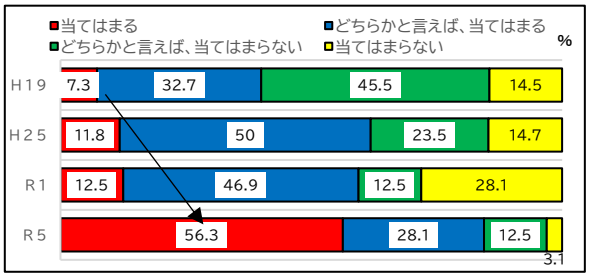


図５　自分にはよいところがあると思いますか

②人の役に立つ人間になりたいと思う意欲の高まり

分析の結果、**図６**のとおり、R５年度の人数は、取組前の H19 年度に比べ優位に多かった。（$\chi^2(9)=31.242$、$p<.01$）。残差分析の結果、R５年度の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、「当てはまる」が大幅に増加していることから、「意欲」が高まったものと言える。

また、「地域や社会」との関わりに関する項目を確認した結果、**図７**のとおり、Ｒ５年度で前向きに考える生徒が有意に多かった（$\chi^2(6)=20.184$、$p.<05$）。
残差分析の結果、H25 よりもＲ５年度の「当てはまる」等の肯定的な人数が大幅に増えていることから、生徒たちは、地域での活動によって、地域や社会と関わる意識も大きく向上したものと言える。

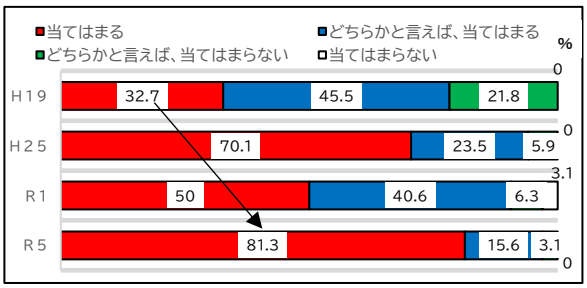


図６　人の役に立つ人間になりたいと思いますか

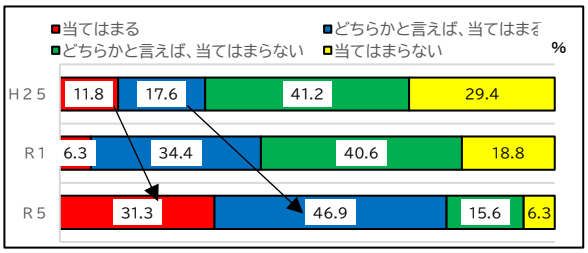


図７　地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか（何かしてみたいと思いますか）

(2) 自尊感情・地域への想いを高める効果について
～全校生徒アンケート（６月・11 月）から～

「太陽プロジェクト」で培う柱となる「自尊感情」について、ローゼンバーグの測定尺度（４検法）を活用し、全校生徒に対してアンケートを実施した。アンケートで得られた数値をｔ検定で確認した結果、太陽プロジェクト実施前後の得点差にみる自尊感情は、取組後でプラスに有意であることが明らかになった。（$t(9)=4.25$、$p<.01$）。また、「プロジェクトへの積極的な参加」と「復興や発展へ関わる意欲（$r=0.662$）」、「自分の良さの高まりの自覚（$r=0.658$）」、「野田村への愛情の高まり（$r=0.522$）」「人の役に立ちたいという意欲（$r=0.449$）」の４項目については、それぞれ正の相関が見られた。これらのことから、太陽プロジェクトを経験することは、生徒たちの村への愛情を高めるとともに、復興や発展へ関わる意欲を高め、自尊感情を高めるのに効果があったものと言える。

(3)「太陽プロジェクト」で培いたい「４つの力」の向上への効果について

復興教育で育成の中心となる「４つの力」の向上について、全校生徒の自己評価で相関を確認したところ、太陽プロジェクトへの積極的な取組と「想いを考え表現する力（$r=0.569$）」、「考え、追究する力（$r=0.423$）」「考え、行動する力（$r=0.339$）」に関して正の相関が見られた。「創造する力」については、３年生のみ正の相関（$r=0.395$）が見られたが、全校生徒においては見られなかった。この結果は、創作太鼓等の創造する活動が本格化するのは、２年生の後半であるため、全校アンケートでは相関が見られなかったためと考える。また、「判断する力」については、全校で太陽プロジェクトとの相関関係が見られなかったことから、今後の取組での改善箇所を示唆していると言える。

６. 今後に向けて

今回、諸調査やアンケートの統計的な分析により、「太陽プロジェクト」の教育的効果が確認できた。中学校３年生を対象とした分析では、12 年前から本校が抱える課題解決への有効性が確認された。また、今年度、全校生徒の約７か月間による取組でも、教育的効果を確認することができた。これらの分析結果等を踏まえ、今後の取組の方向性を確認したい。

(1)「創作太鼓」や「ソーラン」によって、「表現力が身に付いたと考える生徒」と「地域との関わる諸活動を通して、物事を考えたり、追究したりするようになった生徒」の間に相関がある。今後も諸活動において、想いを表現する体験と地域学習を一体的に考えて実施すること。

(2) 地域のために活動したり、発信したりする活動を積極的に進めた生徒は、自己有用感が高まることが確認されたことから、今後も、地域の人・モノ・コトとの関わりを計画的に取り入れること。

(3)「判断する力」が身に付いたと感じている生徒が少ないことが明らかになったことから、「逃げ地図」を避難訓練の際に実際に活用したり、地域と協働したりする防災に関わる取組を取り入れ、「自ら判断する活動」を取り入れていく必要があること。

生徒たちの自己有用感を高めるとともに、防災や復興・発展への意識や意欲の向上を図るため、引き続き、生徒たちに当事者意識を持たせながら、村の復興や防災に具体的に関わらせていきたい。

資料１　生徒作成「逃げ地図」（学区の 18 地区を調査→地図へ落とす→１枚の地図に集約）
（逃げ地図づくりプロジェクトチーム『災害から身を守る「逃げ地図」づくり』ぎょうせい　2019 を参考に作成）

◆村の防災専門官のアドバイスによりお年寄りの歩行速度を 43m/分として現地で実測した。
◆その場から避難所へ到着できる目安の時間（道路着色の意味）
①緑：３分以内　②黄緑：６分以内　③黄：９分以内　④オレンジ：１２分以内
⑤赤：１５分以内　⑥青：１８分以内　⑦茶：２１分以内　⑧黒：２１分以上

資料２　全国学力・学習状況調査質問紙結果「調整された残差」及び度数（人数）　n＝32（３年生）

①自己有用感の高まり（$\chi^2(9)=50.028$、p<.01）
（＋p<.10　*p<.05　**p<.01）　◎優位に多い、▼有意に少ない

	当てはまる	どちらかと言えば、当てはまる	どちらかと言えば、当てはまらない	当てはまらない
H19	-2.879** (4▼)	-1.111 (18)	-3.903** (25◎)	-0.126 (8)
H25	-1.306 (4)	1.554 (17)	-0.488 (8)	-0.060 (5)
R1	-1.139 (4)	1.086 (15)	-2.053* (4▼)	2.330* (9◎)
R5	5.871** (18◎)	-1.364 (9)	-2.054* (4▼)	-2.119* (1▼)

②人の役に立つ人間になりたいと思う意欲の高まり
（$\chi^2(9)=31.242$、p<.01）

	当てはまる	どちらかと言えば、当てはまる	どちらかと言えば、当てはまらない	当てはまらない
H19	-3.978** (18▼)	2.192* (25◎)	3.206** (12◎)	-0.744 (0)
H25	2.172* (24◎)	-1.484 (8)	-1.074 (2)	-0.532 (0)
R1	-0.945 (16)	1.381 (15)	-1.074* (2)	1.839+ (1)
R5	3.448** (26◎)	-2.486* (5▼)	-1.594* (1)	-0.512 (0)

③地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか（何かしたみたいと思いますか）
（$\chi^2(6)=20.184$、p<.05）

	当てはまる	どちらかと言えば、当てはまる	どちらかと言えば、当てはまらない	当てはまらない
H25	-0.891 (4)	-2.309* (6▼)	1.311 (14)	2.058* (10◎)
R1	-1.879+ (2)	0.253 (11)	1.172 (13)	0.068 (6)
R5	2.783** (10◎)	2.091* (15◎)	2.503* (5▼)	-2.157* (2▼)

④人が困っている時は、進んで助けていますか
※H25 は調査項目になし
（$\chi^2(6)=28.786$）　p<.01）

	当てはまる	どちらかと言えば、当てはまる	どちらかと言えば、当てはまらない	当てはまらない
H19	-3.708** (3▼)	0.989 (35)	1.889+ (12)	1.379 (5)
R1	-0.749 (5)	1.334 (22)	-1.062 (3)	0.103 (2)
R5	4.919** (16◎)	-2.446* (13)	-1.062 (3)	-1.654+ (0)

資料３　「太陽プロジェクトへの積極的な取組」との相関　Ｎ＝89（全校生徒）　◎相関あり

	質問項目	育成の中心となる力	相関係数(r)
1	野田村の復興や発展にかかわろうと思うようになったと思う。（村の復興や発展への関わる意欲）		◎0.662
2	自分の良さを広めたり、高まったりしたように思う。（自分の良さの自覚）		◎0.658
3	想いや願いを表現する力がついてきたと思う。	【表現する力】	◎0.569
4	野田村に対する愛情をもつようになったと思う。（愛情の高まり）		◎0.522
5	自分も人の役に立ちたいと考えるようになったと思う。（人の役に立ちたい意欲）		◎0.449
6	地域を学習することを通して、考えたり、追究したりするようになったと思う。	【考え、追究する力】	◎0.423
7	自分で考え、行動する力が身についてきたように思う。	【行動する力】	◎0.339
8	災害時には、どのように行動すべきか判断する力がついてきたように思う。	【判断する力】	0.028
9	創作太鼓やソーラン踊りを練習する際は、自分で考え、創り方をイメージしながら活動できたと思う。（全校）	【創造する力】	0.017
10	創作太鼓やソーラン踊りを練習する際は、自分で考え、創り方をイメージしながら活動できたと思う。（３年生のみ）		◎0.395

※「表現・行動する力」は、生徒の答えやすさを考慮し、二つを分けた項目でアンケートを実施している。
※相関係数（r）：0.7≦r≦1.0（強い正の相関）、0.4≦r≦0.7（正の相関）、0.2≦r≦0.4（弱い正の相関）、-0.2≦r≦0.2（相関がない）

資料４　自尊感情の総得点の変化（６月・11 月）　N=89（全校生徒）

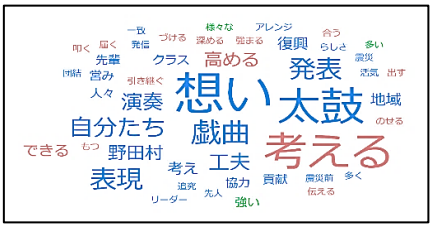
〇はい（４点）・どちらかと言えばはい（３点）・どちらかと言えばいいえ（２点）・いいえ（１点）でカウント
〇質問２、５、６、８、９は逆質問（表中※）のため、得点は逆でカウント（いいえ４→はい１点）

	質問項目	６月得点	11 月得点
1	私は自分に満足している。	244	249
2	私は自分がダメな人間だと思う。※	253	251
3	私は自分には長所があると思う。	286	299
4	私は、たいていの人と同じくらい物事ができる。	259	275
5	私には得意と思うことがない。※	292	295
6	私は自分が役立たずだと感じる。※	260	265
7	私は自分が、少なくとも他人と同じくらいの価値のある人間だと思う。	259	268
8	もう少し自分を尊敬できたらと思う。※	184	189
9	自分のことを落ちこぼれだと思いがちである。※	255	262
10	私は自分のことを前向きに考えている。	265	272

（ローゼンバーグ尺度（４件法）を再翻訳した豊田加奈子・松本恒之『大学生の自尊心と関連する諸要因に関する研究』における尺度を援用した）　※ｔ検定の結果：ｔ(9)=4.25、p<.01

資料５　ＡＩテキストマイニングツールによる分析（問：自分を高めたと思う取組とその理由）N=89

自分を高めた取組の名称



その取組を選んだ理由（自由記述）